

目 次

序 文 なぜ位相角なのか i

二項対立の思考枠組みの限界と問題点／二項対立の思考枠組みの呪縛／
二項対立の思考枠組みからの脱却／議論の布石／本書の構成

【佐藤史郎】

第 1 章 位相角をとらえる 1

- 第 1 節 政治的スペクトル…………… 1
- 第 2 節 「保守」と「リベラル」の硬直…………… 3
- 第 3 節 「位相角」の考え方…………… 5

【川名晋史】

第 I 部 「遺産」か、それとも「選択」か

第 2 章 基地問題の「解法」 14

- はじめに…………… 14
- 第 1 節 適応をめぐる論争…………… 15
- 第 2 節 平和研究…………… 17
 - (1) 暴力／(2) 基地経済
- 第 3 節 戦略論…………… 19
 - (1) 地理と効果／(2) 沖縄の地理的条件
- 第 4 節 歴史研究…………… 21
 - (1) 外適応／(2) 外交史研究、歴史的制度論との交叉
- 第 5 節 システム論…………… 24
 - (1) システムとしての基地ネットワーク／(2) 基地政治の創発性
- おわりに…………… 26

【川名晋史】

第3章 靖國問題の認識構造——マクロ・ミクロの「歴史認識」を超えて	32
はじめに	32
第1節 靖國論争の認識構造	33
第2節 最小国家派	36
(1) 国家神道への拒絶／(2) 「政教分離」の尊重	
第3節 靖國肯定派	39
(1) 太平洋戦争の不正義／(2) 靖國神社の文化性	
第4節 追悼重視派	43
(1) 戦争の教訓と継承／(2) 万人のための追悼施設	
第5節 象徴靖國派	46
(1) 文化と政教分離／(2) 靖國「顕彰」の矮小化	
おわりに	50

【古賀 慶】

第II部 国際社会への「貢献」とは何か

第4章 未完の九条＝憲章構想——集団安全保障をめぐる2つのトラウマを超えて	58
はじめに	58
第1節 「2つのトラウマ」と「理念なき反応主義」	59
(1) 日本における集団安全保障論議／(2) 2つのトラウマがもたらす 思考停止の左右対立／(3) 理念なき反応主義の功罪	
第2節 理念ある反応主義としての「九条＝憲章構想」	65
(1) 位相角による可視化／(2) もう1つの「現実」	
おわりに	70

【中村長史】

第5章 日本の安全保障政策における国連の集団安全保障制度の位置づけ——国連軍・多国籍軍への参加問題を手がかりに	77
はじめに	77
第1節 国連システムにおける国連軍・多国籍軍——その法的位置づけ	80
(1) 憲章想定「国連軍」の制度化失敗と「許可」方式の誕生／(2) 多 国籍軍参加の法的位置づけ	
第2節 国連軍・多国籍軍参加をめぐる法的議論——憲法学と国際法学	82

(1) 憲法学における議論／(2) 国際法学における議論	
第3節 国連軍・多国籍軍参加をめぐる法的議論——政府と安保法制懇……………	88
(1) 従来の政府見解／(2) 安保法制懇報告書	
第4節 日本の安全保障政策と国連の集団安全保障制度——関連性・対応関係……………	94
(1) 問題状況の整理／(2) 個別検討	
おわりに……………	101

【佐藤量介】

第Ⅲ部 「両義性」をどうとらえるか

第6章 デュアルユースの政治論——科学研究と安全保障はいかに向きあうか 106

はじめに……………	106
第1節 分析枠組み……………	107
(1) 戦略的要請と反軍国主義規範／(2) 二次元への展開	
第2節 デュアルユース問題の萌芽……………	110
(1) 原子力の平和利用と軍事化への懸念／(2) 航空宇宙分野における デュアルユース問題	
第3節 軍事組織による活動との距離……………	114
(1) 極東研究開発局の資金問題／(2) 日米間協力の深化がどのような 結果をもたらしうるか	
第4節 研究開発制度の強化と安全保障……………	117
(1) 研究交流促進法案をめぐる論争／(2) 日米科学技術協力協定への 疑念	
第5節 対立軸の変容とその反作用……………	120
おわりに……………	121

【齊藤孝祐】

第7章 武器輸出をめぐる論争の構図——アクター間にみられる対立関係と緊張関係 127

はじめに……………	127
第1節 武器輸出の位相角……………	129
第2節 冷戦期の論争……………	131
(1) 防衛生産の復活／(2) 武器輸出三原則および「統一見解」の成立 ／(3) 対米武器技術供与の決定／(4) まとめ	

第3節	ポスト冷戦期の論争	138
	(1) 武器輸出三原則の相次ぐ例外化 / (2) 防衛装備移転三原則の制定とその後 / (3) まとめ	
	おわりに	143

【松村博行】

第IV部 軍事と非軍事の「境界」

第8章	開発協力大綱をめぐる言説——非軍事目的の他国軍への支援に焦点を合わせて	150
	はじめに	150
第1節	開発協力大綱の策定	152
	(1) ODAの原則 / (2) 開発協力大綱 / (3) 援助政策の多様化	
第2節	開発協力大綱をめぐる議論	156
	(1) 賛成派 / (2) 反対派 / (3) 二項対立で説明しきれない立場	
第3節	開発協力大綱における位相角	160
	おわりに	163

【山口航】

第9章	大規模災害における自衛隊の役割——調整と協働のあり方	168
	はじめに	168
第1節	自衛隊の災害派遣における任務と原則	172
第2節	自衛隊の災害派遣をめぐる論争	172
	(1) 自衛隊の災害派遣に対するイデオロギー対立 / (2) 災害派遣に特化した自衛隊の組織改編 / (3) 位相角による新たな視座——旧来の政治的対立にもとづく分析を超えて	
第3節	自衛隊と地方自治体・民間組織との調整と協働——東日本大震災の生活支援活動	176
	(1) 被災者支援に向けた官民協働の組織化 / (2) 給食支援における自衛隊とNPO・NGOとの連携 / (3) 応急仮設住宅の入居者支援をめぐる連携	
第4節	自衛隊と地方自治体・民間組織との調整と協働——国際的基準をふまえて	179
	(1) オスロ指針 / (2) オスロ指針における六原則 / (3) 『自然災害対応における外国軍隊の資源や装備の効果』(ストックホルム国際平和研究所) / (4) 自衛隊の派遣三原則	

第 5 節 大規模災害における自衛隊と地方自治体・民間組織との調整と連携 …… 182
（1）自衛隊の災害派遣の基準／（2）自衛隊と地方自治体・民間組織との役割分担／（3）自衛隊と地方自治体・民間組織との調整と協働／（4）自衛隊の撤収と地方自治体・民間組織への業務移管／（5）民間組織の自主性
おわりに …… 184

【上野友也】

結びに代えて

索引

編者・執筆者紹介